

重点目標	番号	評価項目	評価者	アンケート項目	A	B	C	D	■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない	昨年度改善策	自己評価(取組状況・成果・課題)	今年度改善策
基礎基本の定着と伝え合う力を育てる	1	言語活用能力の育成 (読む力)	教師	読みとる力を育てる指導を行っている。	60	40	0	0		<p>これまでの取り組みで成果がみられたので、今後も各教科や特別活動全体の中で「読む」「書く」「話す」「聞く」力を育てていくことを意識的に行っていく。</p> <p>「話す」活動については、ペアやグループでの話し合い活動を今後も積極的に行っていくとともに、全体の場で話すことに自信がもてない児童に対して、「考えたい」「考えを話したい」と思えるような課題設定を工夫したり、考えをほめて認める機会を増やしたりして、自信をつけさせていく。</p> <p>「読む」「書く」「話す」力について、一人一人の実態把握を今後も積極的に行い、実態に応じて指導の仕方を変えていく。また、わかる授業づくりのために、基礎・基本の学習を繰り返すなど定着を図り、児童が学習に対して主体的に取り組めるように今後も心がけていく必要がある。</p> <p>家庭学習への取り組みについては、保護者が積極的に関わる家庭と関われない家庭の差があるので、手立てを考え、どの児童も意欲的に家庭学習に取り組むことができるような環境づくりをしていく必要がある。</p>	<p>研究主題にもある「問い」を大切にしたい授業を展開してきた。</p> <p>ICTを活用した授業に取り組むことで、わかりやすい授業づくりにつながった。特に算数では、言葉・図・式などを用いて説明する活動を通して、多様な表現を使って自分の考えを表現する力が育った。教科によっては、教材研究が不十分なところもあった。</p> <p>話し方・聞き方・伝え合いに関しては、学年に応じた系統的な指導をしていく必要がある。家庭学習で新たに自学ノートに取り組んだことで、自分で学習することを考え、まとめる力を育成することができた。しかし、取り組み内容や時間などには個人差がある。</p>	<p>研究を継続し、児童が自ら問う授業が展開できるような「しかけ」を探っていく。</p> <p>まず、「読む力」を身に付けるために、読み取った内容を多様な表現で「書く活動」を進めていく。書いたものについて、よりよい表現はどれか、それがなぜよいか、などを授業で問う。そうすることで、「読む力」の検証ができるだけでなく、「話す力」「聞く力」も総合的に身に付けることができると考える。</p> <p>家庭学習については、引き続き、個々に応じた声かけを継続していきたい。</p>
			児童	文章や図表などを正しく読み取ることができる。	39	47	11	3				
			保護者	子どもは文章や図表などを正しく読み取る力が育っている。	33	47	18	2				
	2	言語活用能力の育成 (書く力)	教師	書く力を育てる指導を行っている。	50	50	0	0				
			児童	自分の考えをまとめて書くことができる。	46	36	14	4				
			保護者	子どもは自分の考えをまとめて書く力が育っている。	24	46	27	3				
	3	言語活用能力の育成 (話す力)	教師	伝え合う力を育てる指導を行っている。	50	50	0	0				
			児童	理由をはっきりさせて自分の考えを発表できる。	28	37	24	11				
			保護者	子どもは理由をはっきりさせて自分の考えを発表する力が育っている。	24	49	24	3				
	4	言語活用能力の育成 (聞く力)	教師	聞く力を育てる指導を行っている。	40	60	0	0				
			児童	自分の考えと比べながら聞いている。	51	33	12	4				
			保護者	子どもは自分の考えと比べながら聞く力が育っている。	26	55	18	1				
5	わかる授業の展開	教師	達成感のあるわかる授業・楽しい授業を行っている。	50	50	0	0					
		児童	授業はわかりやすく楽しい。	62	27	8	3					
		保護者	子どもは授業の内容がわかっている。	40	50	9	1					
一人ひとりを大切にしたいきめ細かな学習指導	6	一人ひとりを大切にしたいきめ細かな学習指導	教師	T.T少数指導など学習形態を工夫している。	65	30	5	0		<p>児童の実態を細かく把握し、実態に合ったきめ細かな指導を行うとともに、校内研究などで外部講師を招聘したり、教職員評価や一人一実践を活用して教師のスキルアップを図っていく。</p> <p>新学習指導要領を見越して、教育課程の洗い出しを行い、外部人材の活用できる単元のピックアップや市や県の外部講師推進事業等を積極的に活用していく。</p> <p>また、学校の取り組みをホームページや学年便りを使って児童や保護者や地域に広く知らせていく。</p> <p>児童が意欲的に取り組めるよう、教師が児童の努力や感想などを取り上げたり、保護者にも呼びかけ励ましの言葉などをかけてもらうようにする。</p>	<p>昨年の結果に比べて6・7・8とも教師のA・Bの割合が増えている。また、昨年度までの研究を基盤に、新教育課程に向けた準備を始めてきた。</p> <p>個に応じた指導の工夫を全職員が同一の歩調で行う確認をし、チームティーチング、学習ボランティアや学生ボランティア、家庭科や総合的な学習の時間を中心とした地域や外部講師の活用を行った。</p> <p>特に学習が苦手な児童には細かい指導ができた。評価に関しては、授業を進める中で児童の意欲・関心を高めるような評価を心がけてきた。今後、保護者にはよりいっそう取組の啓蒙が課題である。</p>	<p>チームティーチング、学習ボランティアや学生ボランティアなどの成果が認められている。</p> <p>今年度、学校応援団を募り、家庭科など地域の方に授業に入っていた児童の学びに効果を上げた。今後も教育課程のよりいっそうの工夫を行い外部人材を積極的に発掘し活用していく。</p> <p>各家庭に発信した家庭学習の手引きをもとに、学校と家庭の連携をより密にしていきたい。そのため学年総会や懇談会での話題とし、児童が意欲的に取り組めるようにしていく。校内研では、実践を伝え合う場を増やし、教師の一人ひとりのスキルアップを図る。</p>
			児童	授業の中で先生に個別に教わるとわかりやすい。	70	23	5	2				
			保護者	学校が行っている個別指導や少数指導は子どもたちにとって理解しやすい。	46	43	10	1				
	7	外部人材の活用	教師	保護者や地域人材による学習ボランティアや外部機関の専門家を活用し学習効果を上げている。	55	35	10	0				
			児童	授業などで学校の先生以外の方から、教わることは楽しい。	65	25	8	2				
			保護者	保護者や地域人材による学習ボランティアや外部機関の専門家の活用は学習効果を上げている。	35	56	8	1				
	8	高める評価	教師	個々の努力や成果を認め、励まし伸ばしている。	65	35	0	0				
			児童	先生は努力したことをみとめ、励ましてくれる。	64	25	7	3				
			保護者	学校は子どもの良いところを認め、伸ばそうとしている。	60	34	5	1				

学校関係者評価でいただいた意見等

- 保護者のアンケート結果のバラツキ「話す」「書く」が気になる。
- 教師の結果とのずれ。それが疑問符
- 保護者の傾向「読む」「書く」「話す」「聞く」が低いのでその改善を
- 道徳的なことが欠如しているのでは。
- 授業がわかりやすい。楽しい。家庭学習の大切さとの結果が出ている。こが大切ではないか。家庭力の向上が大切。生活「朝ご飯」等の基礎的なことが大切。
- 親としては学習面に目がいく傾向がある。
- 学校に関心を持ってきているからの数字ではないか。
- ABをたせば最低でも7割がOKを出しているからよい。
- 授業参観を見て双方向性のある授業などの工夫が見られる。他民族ではないのでコミュ ニケーション力が大切。

学校関係者評価でいただいた意見等

- 外部人材の活用の具体的なものは * 今までの具体例 スクールサポーター(家庭科)の説明 開かれた学校を目指す上でも有効である可能であれば教科にも取り入れていきたいが
- 家庭科に参加しての感想 一人の先生の負担が大きいと感じた できることでの参加 声かけをして人数が増えてほしい自分にとって もよい時間であった。 * 反省の中にもよかったという声が多かった。
- ミシンを使わない時代になった。
- * 外部人材という場面では子供たちの楽しみにもつながるので、今後も声かけを続けたい。

重点目標	番号	評価項目	評価者	アンケート項目	A	B	C	D	■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない	昨年度改善策	自己評価(取組状況・成果・課題)	今年度改善策									
温かく豊かな生活環境をつくる	9	あいさつ運動の推進	教師	自ら進んであいさつができるよう指導している。	65	30	5	0		あいさつは生活の基本であると捉え、今年度取り組んできた児童会活動や委員会における「あいさつ運動」を継続して取り組んでいく。その際、学校にいる間だけではなく、学校外でも進んであいさつができるよう指導する。他者への感謝の気持ちを、全校・各学級で育て、進んで挨拶する姿勢につなげていく。また、教師も手本となるように一人一人が意識する。	学校長が率先して玄関前に立ってあいさつをしてくれていることや、児童会のハイタッチ運動、さらには地域と連携した運動などにより、あいさつできる児童が増えてきた。しかし、玄関前であいさつはできていても、校舎内ですれ違ったときに自分からあいさつをする児童は少ないように思われる。	あいさつ運動を継続して取り組んでいく。玄関先だけでなく、校舎内、さらには学校外でもあいさつができる児童を育てるための方策を考えたい。									
			児童	まわりの人に進んであいさつをしている。	69	23	6	2													
			保護者	子どもはあいさつがよくできている。	45	39	14	2													
	10	言語環境の充実	教師	正しい言葉づかいができるよう指導している。	50	50	0	0					日頃から、教師は常に正しい言葉づかいを意識して心がける。学年、学校全体で言葉遣いについて共通確認し、集会や会議、放送などの「公」の場での正しい言葉遣いと友達との間で使う「温かい言葉遣い」を日常から教える。また家庭教育における言葉遣いの大切さを啓もうしていく。	言葉遣いについては、模範となるべき大人が気を付けて話すように心がけてきた。また、読書する機会を増やすことも、言語環境の充実につながった。しかし、相手に誤解を招いてしまったり乱暴な言動をしまったり、という実態も見られた。図書館の利用については、学校で平均すると良好な数値が得られるが、クラスごとに利用状況の偏りが見られる。	日頃から、場に応じた、相手に応じた正しい言葉遣いを心がけていく。特に、自分が発した言葉を相手がどのように感じるかについて、考えさせる場を設けていく必要がある。						
			児童	正しい言葉づかいに気をつけている。	48	36	11	5													
			保護者	子どもはその場に合った正しい言葉づかいをしている。	30	51	17	2													
	11	道徳教育の充実	教師	思いやりの心や命を大切に育てる指導をしている。	75	25	0	0								教育活動全体を通して、心の育成を図る。また、毎週一時間の道徳の時間を確保し、年間指導計画のもとに道徳の授業を行ったり、必要に応じて児童の実態に合わせ柔軟に対応したりするなど、授業を大切にしている。	校内研究で道徳を取り上げることで、道徳の授業についての研究が深まり、自分自身の道徳の授業を見直すことができた。道徳の授業を充実させるために、年間の計画に沿って1時間ごとの授業を大切にしていきたい。	週1回の道徳の授業を確保することに取り組んだ。教育課程にのっとった授業を計画的に進めることができなかったため、短時間の学習でもよいので、指導項目を網羅するように取り組みたい。			
			児童	友達と仲良く生活している。	73	22	4	1													
			保護者	思いやりの心や命を大切に育てる心が育っている。	54	41	4	1													
	12	児童理解	教師	子どもの悩みや相談を積極的に聞いている。	70	30	0	0											今年度と同様、スクールカウンセラーなど専門家を活用したり、外部の機関と連携し、問題を抱えている児童の支援を行う。また、家庭との連携を密にし、児童理解に努める。	外で児童と一緒に遊び、児童の言葉に耳を傾けることで、児童理解に努めた。問題を抱えた児童に対して、家庭環境に配慮し共通理解を持ちながら、全職員一丸となって取り組むことができた。	来年度に向けての年間指導計画づくりを引き続き進めていきたい。
			児童	先生は困ったときに話を聞いてくれる。	69	24	4	3													
			保護者	子どもは先生を信頼している。	70	25	4	1													

学校関係者評価でいただいた意見等

○あいさつするようになった。 ○前よりあいさつするようになった。

○見守り隊の浸透がよかったので変化してきている。 コミュニケーションがとれるようになった。

○大きな犯罪もなくなった事も要因では。

○マメルメールの活用が有効である 子供にも浸透している。

○学校のセキュリティの向上が厳格になっているのがいい。 ○開かれた学校とのギャップはあるが。

○入れなくしておいて用事がある人が開ければいいと思う。

*「あいさつ運動」についての説明 地域の声の紹介 自然発生的にできれば一番よいのでは地域と子供たちがより顔見知りになってほ

運動に親しみ健康な体づくりをめざす	13	楽しい体育授業	教師	個々の能力に応じた運動に取り組ませている。	45	50	5	0		今後も継続して個々の能力に応じた運動の場の設定や、体力向上のための運動量の確保をしていく。また、指導力向上のために、各種資料を参考にしたり、研修に参加したりする中で、よりよい体育授業を目指す。	多くの児童が体育の授業は楽しいと感じている。保護者も子供たちが体育を楽しみにしている。昨年度に比べ、教師のA評価が高まっている。運動を苦手と感じている児童や、運動に意欲的に取り組まない児童への働きかけを意識して指導に当たっていることと表れたと考えられる。三者が肯定的な評価をしている割合が高い。「健康・体力づくり一校一実践」に継続して取り組んできた成果とも言える。5月に行った新体力テストの結果からも本校児童の体力が向上していることがうかがえる。ただし、シャトルランの結果に関しては課題が残った。	今後も継続して個々の能力に応じた運動の場の設定や、体力向上のための運動量の確保をしていく。また、教師の指導力向上のために、自ら研修に参加したり、各種資料を参考にしたりする中で、「運動やスポーツが楽しい」と感じる授業づくりを目指す。						
			児童	体育の授業は楽しい。	85	10	3	2										
			保護者	子どもは体育を楽しみにしている。	66	26	7	1										
	14	体力向上	教師	体力向上の手立てを講じている。	45	55	0	0					引き続き一校一実践「国母フィジカルUPプラン」のなわとび運動や、ストレッチ体操に取り組み、体力の向上を目指す。また、体力測定の結果、少し落ち込んでいる種目は意識して体育の活動の中に取り入れていく。	毎月の便りなど計画的に行うことで、児童や保護者に健康や食の大切さに目を向けてもらうことができた。発育測定の際の保健指導や、給食の時間の食育で健康について関心を高めている。また、栄養教諭・看護教諭が授業に入り指導の充実を図ったり、委員会活動では、健康に関して情報を発信したりする機会を設けている。今年度は、食物アレルギーや感染症予防について実践的に学ぶ機会を設けることができた。	引き続き一校一実践「国母フィジカルUPプラン」のなわとび運動や、ストレッチ体操に取り組み、体力の向上を目指す。なわとび運動の中では、一定時間跳び続けたり、曲に合わせて跳んだりすることで、楽しみながら持久力がつくような活動を取り入れていく			
			児童	運動することや、外に出て遊ぶことは楽しい。	80	15	3	2										
			保護者	子どもの体力がついてきたように思う。	59	33	7	1										
	15	健康教育の充実	教師	食育・健康教育を計画的に行っている。	40	60	0	0								児童の健康や食に対する意識をさらに高めたい。家庭とも連携をとり、計画的な指導を続けていく。また、食物アレルギーや感染症予防についても、実践的に学ぶ機会を設ける。	学校関係者評価でいただいた意見等	○しばらくの間校庭が使えなくてかわいそうだったが、今は外に出て大勢遊んでいる。
			児童	食べ物や健康に気を付けて生活している。	63	24	11	2										
			保護者	子どもは食べ物や健康に気を付けている。	44	41	13	2										

学校関係者評価でいただいた意見等

○体力テストの結果は *昨年度に比べて向上が見られる。

○縄跳びは *今年度は特に縄跳びでも持久力を求めてさせている。

○インフルエンザの流行は *今年度は特に低学年が少なかつ

○もしばらくの間校庭が使えなくてかわいそうだったが、今は外に出て大勢遊んでいる。

○縄跳びの時の音楽は *流している。

○縦割りの活用は *今でもやっている。

○ラジオ体操は知らない *国母のびのびストレッチが

重点目標	番号	評価項目	評価者	アンケート項目	A	B	C	D	■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない	昨年度改善策	自己評価(取組状況・成果・課題)	今年度改善策
自分の身を守る力を育てる	16	危機管理能力の育成	教師	防災・防犯訓練を生かして、危機管理指導を行っている。	85	15	0	0		<p>定期的に行う防災防犯訓練で事前事後の指導を丁寧に行い、児童の自覚を促す機会とする。また、社会の中で起こっていることを受けて折にふれ、取るべき行動について学級で話し合い、意識を持たせる。保護者と国母地区周辺の防犯状況について連絡を取り合い、地域との連携の中で児童の危機管理能力を高める。</p> <p>日常的に指導を行い、定期的に子どもたちの登下校に付き添う。また、学年ごと集団での下校を呼びかけ下校の様子について教師が把握し、必要に応じた指導を行う。</p> <p>今後も学校内外の事件・事故・災害等の危機に対応する防衛策や迅速な対応策を講じるため、学校・保護者・地域並びに関係機関との連携を強化していく。</p>	<p>本年度も防災防犯訓練を年間計画に従って実施した。取組として、より実際の場面に即した状況を想定して行うことで、訓練の有効性を高めることができた。これまでは児童に対して予告なしで訓練を実施していたが、職員にも予告なし、想定を知らせずに訓練を行った。結果、多くの課題を洗い出すことができた。</p>	<p>例年のとおり、避難訓練等の基本的な考えを職員が共有し、事前指導として児童に落とし込んでいく作業を行う。いろいろな場面を想定し、対応できる能力を養うために、「予告なし」「想定周知なし」という訓練を取り入れ、緊急に対応する力を養うことを目指す。</p>
			児童	地震や火事、こわい人への対応がわかる。	74	21	4	1				
			保護者	子どもは防災・防犯に対して、どのように対応するかかわっている。	46	43	9	2				
	17	交通安全指導	教師	登下校の安全指導を日常的に行っている。	65	35	0	0				
			児童	交通ルールを守り、安全に登校している。	85	12	1	2				
			保護者	子どもは登下校の安全に気を付けている。	49	42	8	1				
	18	安全管理	教師	子どもの安全に気を配っている。	95	5	0	0				
			児童	学校は安全だと思う。	72	19	5	4				
			保護者	学校は子ども達の安全に配慮している。	65	31	4	0				
										<p>学校関係者評価でいただいた意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> *今年度の取り組みの紹介 施設 校舎へ入るための一元化 これからの維持が課題 避難訓練も徹底している 子供たちもしっかり対応できている。 ○自転車でのヘルメットの着用 学校でも指導的な取組をしてほしい 推奨推薦でかまわないので。 ○40年ほど前から静岡ではヘルメット着用を行っている。 ○自転車通学が減っている。 ○遊びに出るときは 自転車 事故はほぼ自転車 ○家庭での呼びかけも必要。 *学校でもふれているが「かぶりなさい」までは言えないところがある。 ○親も自らかぶる姿勢を見せる必要があるかも 自転車のケガは頭のケガ。 ○加害者になってしまうこともあるので自転車乗りの指導を。 ○集団下校時に通学路ではない子もいる。災害の時に困ると思う。 ○子供たちに声かけを続ける必要がある。 		
保護者・地域との連携・交流を充実する	19	地域の参加・協力	教師	地域行事に参加している。	35	65	0	0		<p>引き続き、積極的な参加体制を構築し、小中学校の連携も密にしていきたい。</p> <p>学校全体の行事等については、HPにアップすることができたので、今後は学期1度程度、学年の様子をHPで発信していけたらと思う。</p> <p>HP:学校ホームページ</p> <p>引き続き、教師側からの情報発信や連絡を密に取ることを続け、教師側と保護者側のポイントの差を埋めていきたい。</p>	<p>国母祭り、文化祭等、参加体制を整えてきたが、教師の地域行事への参加意識は「そう思う」が35%と低い。保護者の受け止め方と違いがある。今年度は地域の河川清掃が中止になり、その分参加できる行事が減ったための数字と考えられる。</p> <p>学校日より、HP、学年日より、マメルメール等を通して、学校の様子や緊急時の対応を発信することができた。今年度は新たに、HPに学年行事を年度1回ではあったが載せることができた。保護者にとって更にわかりやすい情報の発信とすることが課題である。</p> <p>保護者への対応は、管理職と相談しながら組織的に迅速かつ綿密に行ってきたが、相変わらず保護者の意識とずれがある。気軽に相談できる人間関係の構築が課題である。</p>	<p>引き続き、小中学校の連携を密にししながら、積極的な参加に向けて協力体制を整える。</p> <p>HPの各学年行事が少ないので学校の教育活動が保護者にもよく伝わるよう情報の内容(当日の様子だけでなく、練習の様子など取組状況等)や写真、回数等、より工夫しながら発信する。</p> <p>日頃から連絡帳や電話等、保護者とコミュニケーションを密に図りながら、今まで相談に消極的だった保護者にとっても、何でも相談しやすい関係を作るよう努力を重ねる。</p>
			保護者	学校は地域や保護者と積極的に交流・連携をとろうと努力している。	64	32	3	1				
	20	情報発信	教師	学校の教育活動を保護者や地域に知らせ理解を得ている。	65	35	0	0				
			保護者	学校便りやホームページから、学校の様子がよくわかる。	55	37	8	0				
	21	保護者の信頼から	教師	保護者の相談にすばやく対応している。	100	0	0	0				
			保護者	学校に保護者や子どものことを気軽に相談できる。	50	36	12	2				
										<p>学校関係者評価でいただいた意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動会 地域行事(子供クラブ)大学でも地域の行事に参加する。児童数が減ってきて地域行事に参加してくれる。個人では参加してくれるが 団体(ソフト・キック)などが参加が少ない。 ○まわりの住民の盛り上げが必要。 ○熊野神社の取り組みの紹介 しまい・除夜の鐘・屋台等。 ◇各地域の紹介 <p>その他のご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級崩壊やどうにもならない子はいるのか。 *一日一度は校内巡視をしていますが、今のところそのような様子はみられない。 ○昨年度との対比をみると 昨年度よりAだけ見ると 落ちているが ABまとめると 21項目中8項目が落ちている。13項目 		